

だんやまこようあとぐん 壇山古窯跡群 (第9地点)

遺跡番号 382-157
調査回数 第1次
所在地 山形県東置賜郡川西町大字時田字虚空蔵山
北緯・東経 37度58分7秒・140度3分47秒
調査委託者 川西町地域整備課
起因事業 町道虚空蔵山西線道路改良工事
調査面積 400 m²
受託期間 平成28年4月1日～平成29年3月17日
現地調査 平成28年5月9日～7月7日
調査担当者 天本昌希(現場責任者)・三浦一樹
調査協力 川西町教育委員会・川西町西部一地区自治会
遺跡種別 窯跡
時代 奈良・平安時代
遺構 須恵器窯跡・竪穴建物・土坑
遺物 須恵器 (文化財認定箱数:70箱)



遺跡位置図 (1:50,000)

調査の概要

壇山古窯跡群第9地点の調査は、山形大学が実施した1966年の第1～8地点の調査から、ちょうど50年目にあたる。今回の調査で検出された遺構は、400 m²の調査区で須恵器窯4基、竪穴建物1棟、土坑2基である。検出した須恵器窯は、すべて南向きの斜面につくられ、ほぼ真北を向く。この4基の窯跡を「SQ」とし、SQ3～6と呼称している。SQ3～5は半地下式の須恵器窯であり、近隣で調査されているものと規模や形状は類似する。SQ6は地下式窯で、山形県内での調査事例は少

なく、注目される。遺物は、須恵器の坏、甕を中心に整理箱70箱を得ている。

遺構

SQ3は、先端の排煙部のみの検出で、全貌は不明である。壁面や床面の強い被熱痕跡や炉壁の存在が、半地下式の窯であることをうかがわせる。

SQ4は、林道や水路など攪乱部分が多く、排煙部は削平されて失っているものの、検出水平長7.16m、最大幅1.6mを測る。斜面上部には逆U字形の雨水よけの排水溝があり、その下まで窯体が存在していたことを推測すると9m近い規模になるだろう。覆土には大量の窯壁が含まれ、壁際には天井を支えるための支柱が残っていた。樹種同定にかけたところ、窯出土の薪材とはことなるクリとの結果が得られている。また、窯の床下には甕などの破片を敷き詰め、排水用の暗渠としている。斜面上部の排水溝には、土師器の甕を合わせ口状に配置しており、地鎮等の目的がうかがわれる。

SQ5は、調査区内に排煙部から灰原まですべて検出しており、窯体の水平長は7.32m、最大幅1.26mを測る。焼成部の床傾斜は、30°にもなり、作業するにはかなりの急傾斜である。壁面だけでなく、床面にも粘土が貼られており、きれいに残存している。窯体からの出

土遺物は少ないが、斜面上位に大量の遺物が集中しており、位置関係から本遺構の灰原と考えられる。

SQ6は、地下式の須恵器窯である。窯体水平長7.64m、最大幅186mで、隣県の調査事例と比べても地下式窯としては大型の部類に入ろう。10°程度の緩い床面傾斜から奥壁は垂直に立ち上がり、煙道部は強く被熱している。斜面上部から床面までの比高差は4.19mにもなり、天井だった1.5m前後の地山がそのまま陥没していた。床面からは、大量の遺物が崩落した天井にパックされた状態で出土している。床面は、2回の作り直しが確認でき、出土遺物は、上層と下層に分けられる。

遺物

出土遺物は、高台付き坯の腰の部分に稜を作り出す、金属器模倣の稜坑りょうわんが大量に出土している。これは壇山古窯跡群の特徴であり、第1地点や隣接する米沢市大神窯跡おおがみでもこの稜坑の大量生産が確認されている。金属器模倣として出土するのは、この稜坑の身のみであり、環状つまみをもつ蓋や沈線をもつものは出土していない。

窯ごとの新旧関係は、地下式窯SQ6の天井崩落によりできた窪みが灰原となっており、斜面上位のSQ4・5から廃棄されたものと考えられることから、SQ6の廃絶後、SQ4・5が操業されたことがうかがえる。すべての窯跡で稜坑の出土が見られるが、出土遺構ごとにヘラケズリ調整の強弱やプロポーシオンに違いがあり、時期差と考えることができるだろう。これらの遺物は、従来の地域編年に照らし合わせると、8世紀末から9世紀初頭の暦年代を与えられる。

まとめ

これまで県内の須恵器窯は、半地下式のものがほとんどであり、地下式窯は8世紀前半で姿を消すと考えられてきたが、今回の調査で8世紀の後半まで伸びることとなった。窯構造の技術系譜やそれを管理した地域権力のあり方を考える上で重要な資料となる。また、遺構の新旧関係から、稜坑の形態変化に時間差を考える糸口を得た。窯跡資料が年代的な基礎資料として重要なことは論をまたないが、稜坑という消長期間の限られた器種の時間差を抽出できるのであれば、これらの供給先の周辺遺跡について、更なる詳細な検討を可能にするだろう。今回の調査は、古代の東北情勢を考察する上で、重要な成果を得たといえる。今後の研究の進展に期待したい。

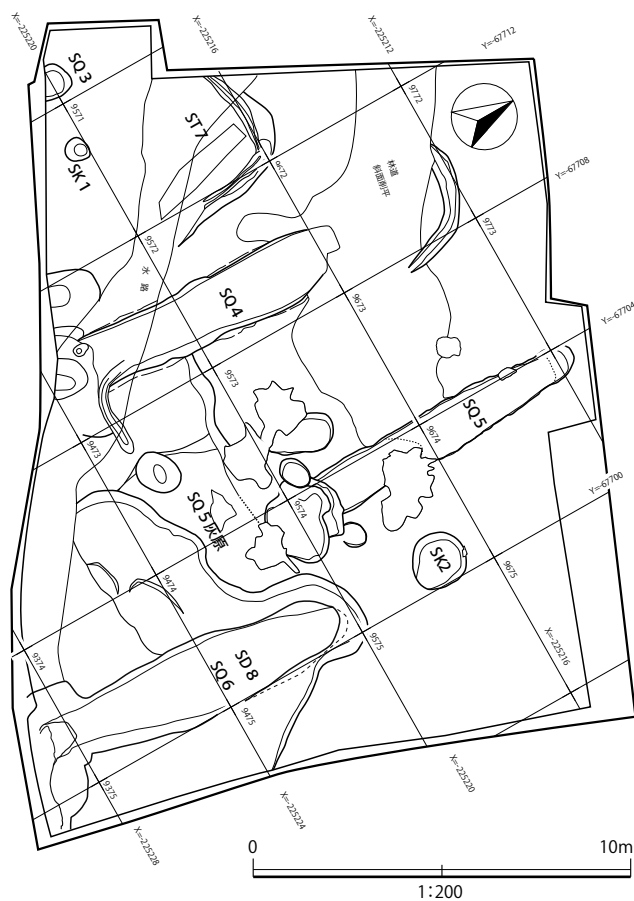


図1 遺構配置図



写真1 SQ6地下式窯完掘（南から）